

○全國結核豫防團體協議會

金澤市に開催したる同協議會は去る五月十四、五の兩日に互りて開催し、第一日は市公會堂に於て代表者協議會を開き同夜懇親會を催し翌第二日は午前中參觀、午後講演會を開催し、猶ほ同時に衛生展覽會を開催し、又結核豫防劑を開演せり、これにつき日本結核豫防協會よりは北里副會長及び栗本理事臨席したり。

○日本結核豫防協會の活動

寫眞試映

同會にては結核豫防に關する活動寫眞映畫の製作中なりしが、此程完成したるにつき四月十八日夜七時より麴町區大手町大日本私立衛生會々堂に同協會員、寄附者及び新聞、雜誌記者等三百餘名を招待し試映を供覧したり、劈頭先づ北里博士は挨拶に兼ねて結核病の一斑並に同協會事業について講話をなし、次で遠山博士は活動寫眞完成に至る迄の經過を述べたる後寫眞映

寫に移りたるが、こは會て報導したる如く「ドクトル」

佐藤敏夫、長田幹彦兩氏合著「惡鬼の生涯」を骨子とし、更に遠山博士が潤色を施したるものにして、全部五卷、全長四千呎、前二卷は「惡鬼の活躍」と題し主として結核の慘害を示し、後三卷は「一陽來復」と題し、結核亦不治の病にあらざるを寓したるものにして、何人にもよく這般の事理を解し得可く脚色せられたり。

尙結核映畫は過般金澤に於ける全國結核豫防團體協議會を機とし同地にて映寫したるを以て、今後各地に於て一般公衆の供覧に供する筈なりと。

○大日本私立衛生會定期總會

同總會は既報の如く愈々來る二十五日午後一時より麴町區大手町同會講堂に於て左の順序によりて開催の事に決定せり。

- 一、開會の辭 會 頭 醫學博士 北里柴三郎
- 一、前年中本會成績及び會計の報道 評議員理事 醫學博士 遠山椿吉

○流行性腦脊髓膜炎の指定

水野内務大臣は今回流行性腦脊髓膜炎を豫防法の適用を必要とする傳染病なりとして左記の如き省令を發布せり、其の結果法定傳染病は十種を算することになり。

○内務省令第八號
明治四十四年七月内務省令第九號中「バラチフス」の下ニ「及流行性腦脊髓膜炎」ヲ加フ
附則 本會ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
大正七年四月二十七日 内務大臣 法學博士 水野練太郎

會費領收廣告

一金壹圓	自大正六年四月	東京	井上豐太郎
一金壹圓	至同 六年九月	同	須藤末吉
一金壹圓	同	同	小山善
一金壹圓	同	同	橋本善之助
一金壹圓	同	同	清田政
一金壹圓	同	同	本瀬忠潤
一金壹圓	同	同	高田耕安
一金壹圓	同	同	吉見コウ

一、前年中内國衛生上の報道

評議員

栗本庸勝

一、内務大臣祝辭

一、内務省衛生局長演說

一、講演

〔戰時の國民營養

食料問題

- 陸軍二等軍醫 井上圓治
- 法學博士 田尻稻次郎
- 副會 頭 法學博士 窪田靜太郎

○痘苗血清等特約販賣人の指定

傳染病研究所に於て同所痘苗、血清等販賣規程第五條第三項により、左記八人を大正八年三月三十一日迄特約販賣人に指定したる旨、三月廿七日及び四月十八日の官報を以て發表せり。

- 飯島久作
- 星 一
- 織田宇一郎
- 白井松之助
- 小島定七
- 林 源十郎
- 森田徳次郎
- 京都市日橋區本石町四丁目十六番地
- 同 京橋區南傳馬町三丁目二十二番地
- 星製藥株式會社專務取締役
- 京都市下京區古川町三條南
- 大阪市東區道修町二丁目二十三番地
- 名古屋市東區京町四十四番戶
- 岡山市紙屋町八十九番地
- 福岡市下土居町三十五番地

時 報 痘苗血清等特約販賣人の指定 流行性腦脊髓膜炎の指定